



毎日新聞

MAINICHI



9月28日(日)

2025年(令和7年)

Sunday

毎日新聞

19

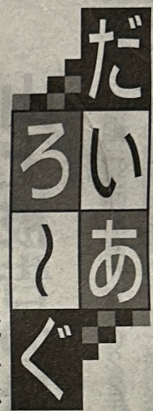
東京

2025年(令和7年)9月28日(日)

(第3種郵便物認可)

「くにたち農園の会」理事長

武藤芳暉さん(35)



東京彩人記

国立市でコミュニティー農園を運営する「くにたち農園の会」。農地を生かした街づくりに取り組む市民活動としてスタートした同会は、田畑を活用した放課後クラブや子どもの居場所づくりなど子育て支援にも幅を広げる。「自身もここに救われた」と語る武藤芳暉理事長(35)に話を聞いた。

【矢野純一】

——市民農園にとどまらず子育てに関する事業など活動は多岐にわたっていますね。

◆米や野菜作り、草木染などを楽しめる農業体験や、不登校の子どもが通うフリースペースなど10の事業があります。「こんなことができたらいいな」というアイデアを具現化していくうちに増えました。

——参加者は何人くらいですか。

◆2013年に活動を始め、現在は約3000平方メートルの農地を借りて運営しています。土日に行き親子田んぼ体験などの参加者も含め年間延べ約

も大切なことです。大人になった時に心の豊かさで大きな差が出ると思います。

——不登校の子どもたちのフリースペースもユニークですね。

◆新型コロナウイルスの感染拡大が大きなきっかけとなりました。授業が再開しても戻れない子どもが増えました。その子どもたちのために、ちょっと充電できる居場所を作りました。今では国立市と連携する中で、ここに参加した市内の公立校の子どもたちは学校の出席扱いになりました。現在は約50人が登録しています。

——武藤さんはどのようなきっかけでここに關

◆資金面も含め運営は大変なことも多くあります。ここを支えてくれるスタッフは正規雇用、非常勤の方々を含め約50人います。都や市の委託事業や補助金、企業の助成金のほか、自主事業として利用者からお金を頂

田畑の周りでは子どもたちが跳びはねていた。久しぶりに子どもたちの歓声を聞いた気がする。数時間の滞在だったが、私もこの環境に癒やされた気がする。

記者の一言

は。◆「土に根ざし共に育つ、たくましい地域を次世代へ」というビジョンを掲げています。自己満足で終わらせないよう地域とつながって価値がある物を提供すること、を続けようと思います。また、他の地域で同じような事業を始めようとしている人をサポートするようなこともしてみたいです。

子ども、作物、たくましく育て



むとう・よしき 1990年、都内出身。武蔵大卒。「くにたち農園の会」立ち上げ直後の2013年に友人に誘われて活動に参加。24年から理事長。堆肥作りなどは、三鷹市で有機農業を実践する農家で学んだ。